

ダンさん支援上映会が開催、母校の日本映画大学



平素より、ミャンマーで拘束中の映像作家モンティンダン（ティンダン、高峰暖）さんの支援にご協力いただきまして、ありがとうございます。

去る2月4日、川崎市アートセンターで、「映像作家モンティンダンさん支援特別上映会」が開かれました。母校の日本映画大学（旧日本映画学校）が主催したもので、ダンさんの卒業制作である「エイン（家）」と、同窓生らが集って制作した「めぐる」の2本が上映されました。ダンさんの指導教官だった天願大介学長がダンさんの生い立ちなどについて話したほか、ダンさんと同様にインsein刑務所に拘束されていた北角裕樹氏、久保田徹氏が最新の状況を報告しました。ダンさんと獄中で出会い、肖像画を描いた画家マウンポー氏のインタビューも上映されました。会場からは、「ダンさんのことはニュースで知っていたが、こんないい作品を撮る作家だとは知らなかった」「元気で帰国してほしい」などの声が聞かれました。

上映会に際して、エイン基金のためにカンパを募っていただき、10万9105円のご寄付を頂きました。これで、刑期の3年（2024年4月ごろまで）という最悪の場合を想定しても、定期的な差し入れを行うことができる見通しです。改めてお礼申し上げますとともに、大切に使用させていただきます

最近の支援状況ですが、1月に別の刑務所に収容されているダンさんの知人女性らに対し、現地の支援関係者と連携する形で食品や日用品などの差し入れを送りました。また、現地の日本大使館の口添えで日本語の書籍の差し入れが可能になったため、2月に日本から書籍や食品などを現地向けに発送しました。

友人の方々にはダンさん向けの手紙を書いて頂きました。だいぶ時間がかかってしまいましたが、1月に彼からの返事が届きました。「みなさんの手紙が大変力になりました」「運よく生きることができた命を大切に、新しい人生を人のために生きることを約束します」「もう少しだけ待っていてください。近いうちに会うことができると思います」などと綴られていました。

残念ながらミャンマー情勢は内戦が激化するなど深刻さを増しています。ダンさんのように2年前のクーデター後に拘束された市民は、数えられているだけでも2万人に届こうとしています。今後とも、ダンさんのこと、ミャンマーのことにご関心、ご支援頂ければ幸いです。



ダンさん友人有志

北角裕樹

電話：090-2427-5221 メール：kitazumi1@gmail.com

保芦宏亮

久保田徹

(安全上の理由から、ミャンマー在住の有志の氏名は伏せています)